



日本の春を彩る「国民的」花
桜

もはや説明は不要かもしれませんが、日本を代表する花である桜。祖先種の起源はヒマラヤにあると考えられており、日本では花見目的に多くの栽培品種が作り出されています。観賞用として最も多く植えられているのがソメイヨシノです。
サクラの語源は「春の里にやってくる稲(サ)の神が憑依する座(クラ)である」や「富士の頂から花の種をまいて花を咲かせたと言われる木花之開

耶姫の『さくや』をとった」などがあります。桜全般の花言葉は「精神美」や「優雅な女性」などがあり、桜の美しさや散り際の桜吹雪の雅な様、日本の国花としての品格を表しています。
造幣局桜の通り抜け(大阪市北区)や大阪城公園(大阪市中央区)、夙川河川敷(兵庫県西宮市)、嵐山(京都市)、吉野山(奈良県吉野郡)をはじめ関西各地に名所がありますので、日本を代表する桜の美しさを楽しんでください。

4/1	水	新学年 エイプリルフール
3	金	大安
5	日	清明
8	水	花まつり
9	木	大安
15	水	大安
19	日	大安
20	月	穀雨
25	土	大安
29	水	昭和の日
5/1	金	メーデー 大安
2	土	八十八夜
3	日	憲法記念日
4	月	みどりの日
5	火	こどもの日 立夏
6	水	振替休日
7	木	大安
10	日	母の日

4月 シティ信金行事予定

- 新入職員入庫式
1日 午前10時から
本店 2階大ホールにて
- シティ信金写経会
8日 午前9時から 奈良西ノ京 薬師寺にて
- 内外情勢調査会 大阪シティ支部4月例会
14日 正午から 帝国ホテル大阪にて
講師：慶應義塾大学総合政策学部 教授 廣瀬 陽子 氏
- 地元への奉仕活動(清掃)
全店舗で実施

シティ信金協賛等行事予定

- 第37回大阪シティ信用金庫杯
第46回大阪府春季少年軟式野球大会
19日~5月24日まで
開会式 大阪シティ信用金庫スタジアムにて

Monthly essay

儲けて儲けて儲かる

関

西・伊丹・神戸の関西3空港を運営する関西エアポートが開業して4月で10年。そのニュースを見て、伊丹(大阪国際空港)しかなかった頃に引き戻された。

伊丹は騒音問題で夜間発着が厳しく規制された。ジェットの推進力が落ちる夏、3000tの滑走路を離陸するため輸出貨物十数tが下ろされたこともあった。チャーター機が入れず、南米産のカーネーションは北米・欧州・福岡と乗り継ぎ、大阪に陸送された。航空貨物の8割は成田空港に集中、関西の貨物も成田に向かった……。

「空の鎖国」は関空の開港(1994年9月)で解消に向かう。が、「廃止」のはずの伊丹が存続し、新空港「神戸沖」案を拒否した神戸市が一転空港建設に手を挙げた(2006年2月開港)。気がつけば3空港——。「人口が2倍の首都圏でも2空

港なのに」

過度の競争を回避し、路線・便数を調整しながらどう一元的な経営を実現するか。その問題意識から生まれたのが関西エアポート(KAP)だった。

ただ、3空港の運営権売却(コンセッション)の入札に参加したのはオリックスと仏空港運営大手バンシ・エアポート連合だけ。他の外資系は参加に前向きだったが、応じる日本企業は1社もなかった。

オリックス社のシニア・チェアマン宮内義彦氏は17年10月、大阪市内で「求められるこれからの経営者像」について語った。KAP開業の翌年である。

「生き残り」に走るあまり、投資リスクを避け、コストカットが経営そのものになってしまった現状を「進取の気性を失った」と断じた。最低落札額2兆2000億円。45年にわたって年間数百億円払い続ける、まったく

未経験のビジネスに踏み出した経営者の言葉の重さ。反論や発の余地は皆無だった。

関西活性化に必要なものを問われた宮内氏は答えた。「基本は人材と投資。関西の優秀な人材に経済、科学、文化で才能を花開いてもらう。そのためにどれだけ投資ができるかです」。

今年6月の株主総会で10年ぶりにトップを譲る山谷佳之KAP社長は、次の30年は「儲けて儲けて儲かる」3空港にしたいと語ったという。

25年3月期通期の連結決算は2期連続で最終赤字となったKAP。30年には神戸の国際定期便就航も予定されている。が、言うまでもなく、燃料価格、為替、国際関係、さらにパンデミックなど、空港ビジネスの環境は複雑で一筋縄ではいかない。

「儲けて儲けて儲かる」。関西と日本のためにもさらなる発展を祈りたい。(わ)